



日野 正則 議員

ウェルサンピア取得について

問

ウェルサンピア伊予の主体部分の最低売却価格は七億八千三百万円である、内部改造二億円とのこと。主体物件に対して割高の感じだ、その内容が知りたい。特に、備品の購入も対象だが、三十年近く使用した物品なので、納得し難い、どうしてもというなら売却価格に上乘せずべきでは。

答 中村市長

最低売却価格の算定基礎は、整理機構側が示したものであり、鑑定評価と一定の基準に基づき算定された額と推測するところである。また、この最低売却価格は一式の価格で、土地、建物等に分けて額が示

されているのではないということをおきたい。内部改造費は、本市が購入しても現在の厚生年金休暇センターとかウェルサンピアという名称は使えなくなり、看板類はもちろん備品、消耗品に限らず、あらゆるものの変更が必要となってくる。また、一部改造工事、予約システムやパンフレットの作成、宣伝、業務の引継ぎなど相当の作業と経費が必要となってくる。それら開業までの必要経費は、現時点で約二億円程度と見積もっている。



ウェルサンピア伊予の施設

市街化区域の雨水計画について

問

市街化区域で大雨が降ると

各地で床下浸水や378号線では冠水の被害が出た。今の雨水計画を見直すべきだ。安広・梢川・相田川ポンプ場のルートを有効活用し、また大谷川以北の雨水は大谷川の下に暗渠を作り取水する。費用がかかり過ぎて投資的效果が疑問、見直すべきではないか。

答 中村市長

平成元年度から始めた汚水整備事業も見通しがたつてきたことから、今後は雨水整備も取り組まなければならぬと考えている。

このため本年度は、浸水対策として安広ポンプ場の増築工事を、また二年度には大谷ポンプ場のポンプ増設を計画し、浸水防止を図りたい。近年の降雨状況を踏まえたとき、三十年を経過した雨水整備計画では対処しきれなくなっている。抜本的な対策には三十億円を超える費用が見込まれ、市の財政状況も考慮しながら検討したい。

市街地における浸水対策は、市民生活の安心・安全を確保し、生命財産を守るため、抜本的な改修とあわせて、緊急性の認められる箇所について

改修を進めたい。

答 水道部長

大谷川北側の雨水排水は、大谷ポンプ場に流入してポンプアップすることで、公共用下水道の認可を受けている。大谷川の川底下をくぐらせた配水管の埋設の問題、またポンプ場の増設の用地買収、維持管理費等総合的に判断し、前向きに検討したい。



越水後かさ上げされた水路

区長制度のあり方について

問

住民自治組織の結成が進む中で今後の区長の役割について

問う。地域間の格差が大きい中で区長手当は均等割と戸数割の併用にすべきだ。特に農村の区長は多くの役職につき、多忙になり区長のなり手がなく困っているのが現状だ。これに対し何らかの対策を取るべきではないか。

答 中村市長

区長制度は、本市の規則に配置根拠を置き、広報関連業務・広聴業務・その他特に依頼する業務で、区長の果たす役割は大変大きいものである。住民自治組織等の結成が進む中で、区長さんには地域住民への説明、市への要望、依頼など市と地域とのパイプ役、橋渡しとして御協力いただきたい。

報酬は、平成十八年度より現在の五十広報区体制として一律十四万円の報酬を払っており、人口規模、対象面積等地域により役割に差をつけることは難しいと考えている。

平成十八年度に旧一市二町の報酬を統一したこともあり、当面現在の額として、今後社会及び経済の情勢を見ながら適切な時期に見直しをしたい。